

特別調査 1

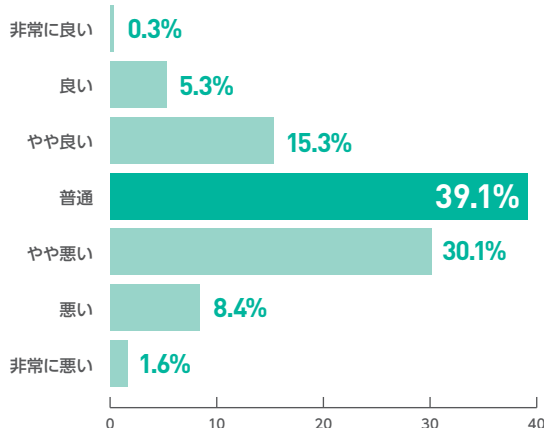
2026年(令和8年)の経営見通し

2025年度は、エネルギー価格の高止まりや為替変動に加え、仕入れ単価の上昇や最低賃金引上げが続き、多くの中小企業にとって厳しい経営環境が続きました。加えて、海外情勢の不安定化や国内外の政策動向が業況の先行きに一層の不透明感をもたらしています。一方で、原材料価格の高騰が続き、企業のコスト負担は依然として重くのしかかっています。こうした厳しい環境の中、2026年度における日本の景気見通しや自社における売上動向等について、アンケートを実施いたしました。

調査時期／2025年11月18日～12月3日 調査対象企業数／1560社 有効回答数／379社 有効回答率／24.3% ※四捨五入の関係で構成比の合計が100にならない場合があります。

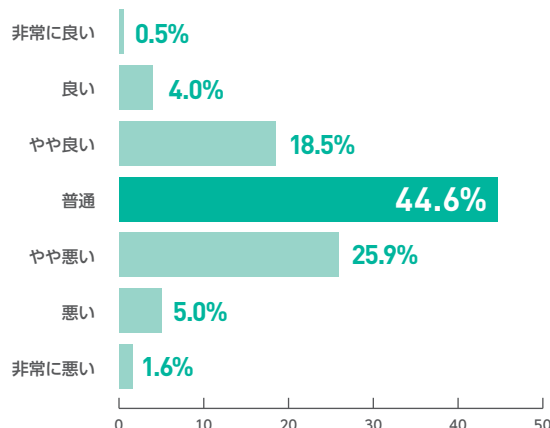
Q1

貴社では、2026年の日本の景気をどのように見通していますか。※1つ選択



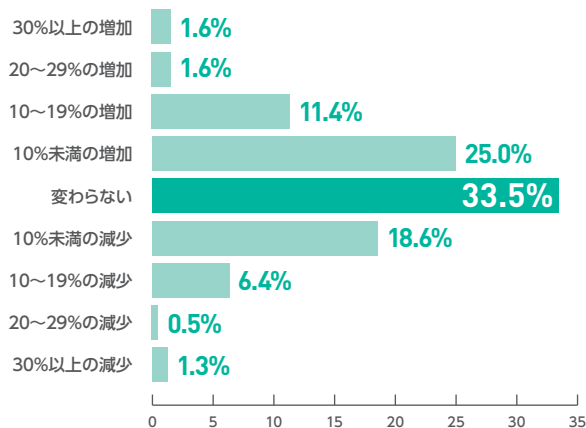
Q2

貴社では、2026年の自社の業況(景気)をどのように見通していますか。※1つ選択



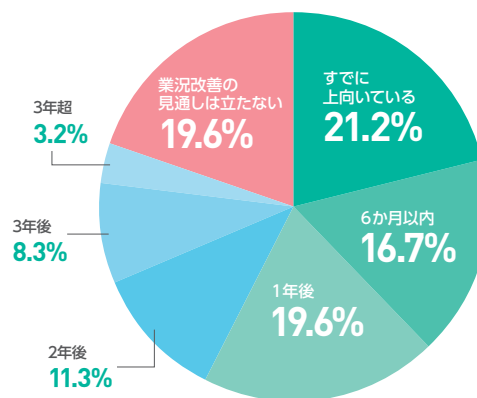
Q3

2026年において貴社の売上額の伸び率は、2025年に比べておおよそどのくらいになると見通していますか。※1つ選択



Q4

貴社では、自社の業況が向上く転換点をいつ頃になると見通していますか。※1つ選択



Q5

貴社では、現時点で、企業間の資金決済の手段として、紙の手形・小切手を使っていますか。使っている場合はその理由を①～⑥から、もともと使っていたがやめた場合は現在の主な決済手段を⑦～⑨から、そもそも手形・小切手自体を使っていない場合は⑩を、最もあてはまるものを1つだけ選んでお答えください。※1つ選択

